

教育情報コーナーからのお知らせ



新年あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。
平成26年は午年ですね。「馬」は古くから人間とともに、生活してきました。
そのためか、日本にもそして世界中にも「馬」に関連したことわざがたくさんあります。
それぞれのお国柄がしのばれ興味深く、楽しいと思います。お正月の話題にどうぞ。

『河を渡るときに馬を変えるな』 《アルゼンチン》

物事が進行している途中で方針や、やり方を変えるのはいちばん下手なやり方。

『女と馬とギターは他人に貸すものではない』 《アルゼンチン》

農民は時には妻よりも馬の方をより大事にする。

『馬の坂道と友達の酒とは無理強いするな』 《コロンビア》

馬が坂を登るときは休み休み登るが、無理に急がせてはならない。

『女と馬は欠点と災いを抜きには存在しない』 《スイス》

読んで字の如し。

『馬と女は手放すべからず』 《ハンガリー》

また戻ってきてくれる保証はない。

『白馬の尾を掴む』 《ハンガリー》

運の良い人。白馬は昔ハンガリーでシャーマンの儀式に生贄として捧げられた。

『馬が良くとも御者が駄目』 《ハンガリー》

好機を逸する。

『速い馬は着くが、速いことばは着かない』 《ブルガリア》

急ぎの早馬は目的地に着くが、思慮なく不用意に放ったことばは意図した所には届かない。

『馬が蹴り合っている間にロバが良い干し草を食べる』 《ブルガリア》

力が互角の二者が争っている間に第三者が利益を得る。

『馬は馬に等しからず』 《ポーランド》

「十人十色」にあたる。

『馬はいるが馬場がない、馬場はあるが馬がない』 《トルコ》

世の中のことはどうもうまくいかないものだ。「あちらたてれば此方が立たぬ」。

『馬は乗り次第で足で土を掘り始める』 《トルコ》

人は上司次第で働きもし、怠けもする。

『名馬にはひと鞭で十分』 《イラン》

賢者はひとこと言えば十分に理解し、くどくど説明する必要はない。

『仕事をして人となる上り坂を越えて駿馬となる』 《モンゴル》

馬はけわしい上り坂を越えて立派な駿馬となり、人もきびしい困難な仕事をやり遂げて一人前となる。

『一度に二頭の馬には乗れない』 《フィリピン》

目的は一つにしぼれ。

『犬の幸運は馬の不運』 《インドネシア・マレーシア》

日本では「禍福は糾える縄の如し」と言う。

『馬に角を求める』 《インドネシア・マレーシア》

人は、それぞれの個性と身分に応じた特性をもつ。角を生やした馬はもはや馬ではない。

『馬に乗って馬を探す』 《日本》

身近にあるものを忘れて、遠くをさがす愚かさをいう。

『馬に乗っては三間先を見よ』 《日本》

目先のことにとらわれず、常に一步先に心向けよ の意。

